

第1章 基本理念・みどりの将来像・取組みの姿勢

関連計画の改定等
仙台市基本計画

本編
P.12~

挑戦を続ける、新たな杜の都へ
～“The Greenest City” SENDAI～

まちづくりの理念として、連続と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤に、世界からも選ばれるまちを目指し、仙台が持つ都市個性の深化と掛け合わせを通じて、「杜の都」を新しいステージに押し上げるという想いを込め、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」を掲げています。

副題の「“The Greenest City” SENDAI」は、「杜の都」と親和性のある「Green」という言葉に、目指す都市の姿に関連する多様な意味を持たせるとともに、世界を見据えて常に高みを目指していくまちづくりの方向性を示しています。

本市のみどりの課題

本編
P.30

〈本市のみどりを取り巻く社会状況、みどりの現状、前計画の成果等を踏まえ、以下の課題を抽出〉

課題①

加速する少子高齢化や激甚化・頻発化する自然災害、国内外の交流人口の拡大等により激化する都市間競争など、大きく変化する社会状況への対応が求められる中で、みどりをまちづくりの重要な資源として捉え、その多様な機能を積極的に活用していくことが必要です。

課題②

みどりの多様な機能をまちづくりに効果的に活用できるように、法令等に基づく緑地保全制度の運用の更なる推進や都市緑化の質の向上、公園や街路樹等の老朽化や安全性の確保など、みどりの適正な維持管理や配置を行い、質の向上や量の更なる充足を図ることが必要です。

課題③

みどりの整備・維持管理・利活用に関する取組みを推進するために、市民や市民活動団体、事業者等の多様な主体と更なる連携を図っていくことが必要です。

本編
P.31

基本理念

百年の杜づくりで実現する新たな杜の都
～みどりを育むひと、みどりが育むまち～

本市の都市個性の1つである、奥山から沿岸部までの豊かな自然と都市機能が調和した「環境」を、市民とともに「百年の杜づくり」が支えてきたことを踏まえ、引き続き「百年の杜づくり」を推進し、今後はまちづくりにみどりの多様な機能を積極的に活用することで、新たな杜の都を目指します。ひとがみどりを育み、そのみどりがまちと暮らしを育むことで、杜の都の更なる高みを目指します。

みどりの将来イメージ

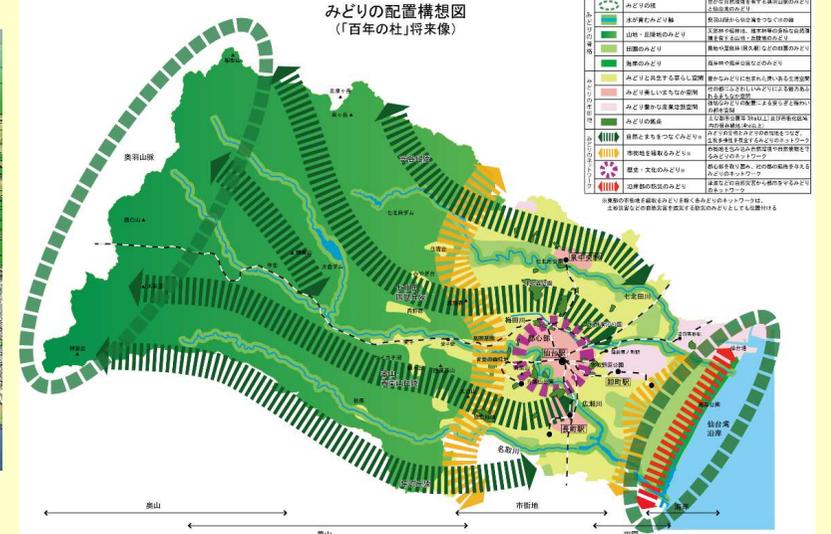
本編P.32



みどりの配置構想

本編P.36

みどりの配置構想図
（「百年の杜」将来像）



取組みの姿勢（グリーンインフラの推進）

本編
P.38~



本編P.40

グリーンインフラの推進

基本理念を実現すべく、全庁一丸となるとともに、市民や事業者などの多様な主体と連携し、グリーンインフラを推進していきます。

1) グリーンインフラの定義及び推進する内容について

本市におけるグリーンインフラは「コンクリート等の人工構造物による従来型の都市基盤（グレーインフラ）に対して、良好な景観形成やヒートアイランド現象の緩和、水害リスクの低減など、自然環境が持つ多様な機能に着目し、それを都市基盤として活用するという考え方（取組み）」と定義しています。

本計画においては、就労環境や住環境の向上、子育てや教育、コミュニティ形成への寄与による人づくりなど、持続可能で魅力ある都市・地域づくりへの多岐にわたるグリーンインフラの効果に着目し、新型コロナウイルス感染症による社会の変化にも対応したまちづくりに取組んでいきます。

2) みどりのマネジメント

自然が持つ多様な機能を活用するためには、みどりの適正な維持管理や配置による質の向上や量の充足が不可欠です。このため、法令等に基づく緑地の保全や建築物などでの質の高い緑化の誘導を図るとともに、都市公園や街路樹など身近なみどりを都市経営の重要な資源として捉え、長期的な視点に立ち、計画的な整備や維持管理を行うなど、みどりのマネジメントに取組みます。

